

平成30年度 第3回 定例会 まとめ

部会	報告及び議題(概要)	意見交換	取り組みとして
就労支援	<p>* 事業所変更希望のある利用者の対応について ⇒相談支援部会との合同部会で確認</p> <p>* 「サービス情報シート」の更新 * 就労関係研修会の開催</p>	<p>* 滝の園(入所施設)から施設外の一般就労へ、取り組みの実践例報告</p> <p>* グループ協議「協議会として実践可能なこと」 ①地域での障がい理解を進めるための取り組み ②奄美地区での障がい者用駐車場整備について</p> <p>議題1: 地域での障害理解を進めるための取り組み ○小さなころから、学校やPTAを通して障害について学ぶ機会を作る。 ○こどもだけでなく、保護者にも理解を広げることが必要。 ○障がいのことをかみ砕いてわかりやすく伝えることも大切。(特性として) ○学校の先生にも、障がいのことを理解してもらえるような研修が必要。 ○学校でも、クラスやスポーツ少年団など、小さな集団から理解してもらうように働きかけると、学校全体に広がりやすい様に感じる。(理解してくれるこどもや親を増やす) ○学校のクラスなどで取り組む際には、授業参観の時に障害理解をテーマに話し合ってもよいのではないかと。 ○福祉教育が原点。当事者との交流を通じて声掛けや接し方を学ぶのがよいのでは。 ⇒地域の民生委員や児童員などにも参加してもらう。 ○小・中・高を含めた学校での障害理解を深めるための勉強会。 ○施設などが作業を通じた触れ合いの機会を提供する。 ○子どもの頃の福祉教育が原点になる。実際に車いすに乗ったり、押したりなど体験することで、声掛けや働きかけも学ぶことができるのでは。 ○地域の民生委員、保護司会、更生保護女性会、自治会、区長などの囑託員、駐在員などの毎月の定例会に出向いて障害に関する研修を行う。 ○広報誌などに定期的に障がいのことを掲載してはどうか。(市町村だより) ○行政主導の行事や活動に積極的に障がい者が参加できる内容を取り入れていっては。 ○障がい理解を持っている人が少ない年齢層に対するアプローチが必要。 ○行政職員(福祉課以外の)の研修(新任、中堅等)に障害理解を深める研修を取り入れてはどうか。 ○障がいを持っている人と地域の人と一緒にできるイベントの開催 ○ロータリークラブの定例会などで、障害理解のための勉強会を行ってはどうか。</p>	<p>地域に向けた障がい者の理解については、それぞれの地域で開催することが必要であるとの意見が多くあり、そのためにはその地域の学校や入所施設、事業所や関係機関の協力を得て勉強会、研修会、講習会を実施する。</p> <p>第1回、第3回で出た意見交換の内容(上記)の具体的な方策について次年度協議をする。</p> <p>例えば ①各地域の教育委員会と連携し小中学校で障害を考える時間を作ってもらい、協議会として出向いて授業をする。 ②各地の入所施設と連携し、その地域で地域住民に対し障害を考える時間を設ける。</p>
相談支援	<p>* 身体障害者(進行性難病等)の補装具等利用について * 医療情報提供に関する連携シート * サービス事業所の見学について * 相談支援専門員からみた実態把握のためのアンケート調査の実施</p> <p>◎合同部会(就労支援部会) * サービス変更(就労支援に関する)時の事業所間の連携 * サービス事業所と相談支援事業所間の必要書類のルール化</p>	<p>議題2: 奄美地域の障がい者用駐車場整備の要望について ○当事者への困りごとの聞き取りを実施してはどうか。 ○当事者の意見を取り入れることが大切。 ○当事者目線で、優先順位をつけて取り組むことが大切。 ○大きな店などの店内でアナウンスしてもらうことも必要。 ○バリアフリーウォッチングの報告書を福祉課だけでなく、他の職員にも共有してもらおう。(チェックにもほかの課職員にも参加してもらったらいのでは) ○障がい者トイレが外部の人にわかりにくい状況があるのは改善が必要。 ○市民の意識の向上のためには、わかりやすいアプローチが必要。 ○市町村議員などにも障がい理解を広げるための研修や体験会が必要では。 ○行政予算で介護保険のようなパンフレットが欲しい。 ○意識向上のきっかけとして、免許更新や取得の際に周知できればよいのでは。 ○協議会として駐車スペースの統一色(ライトブルー)の導入を進めていっては。 ○奄美のスタンダードとして障がい者用駐車場のカラー化を推奨する。 ○「思いやりゾーン」の導入など、対象がそうでないかに分けるのではなく、必要な人が使えるゾーンも設置してはどうか。 ○カラー化に関して民間事業者が実施する場合に補助制度はないか検討。(あれば紹介できたらすすむのでは) ○案内板は、設置場所によって歩行の邪魔になることもあるので、設置には配慮が必要。 ○「施設(高齢者・障がい者)関係車両は、利用しない」ということを以前定例会で取り決め、文章発送も行ったが、それ以降にできた施設などには伝わっていない現状もある。(障がい者が同乗していれば、利用できると勘違いしている事業所もある) ⇒店舗などで、定期的にアナウンスしてもらおう。協議会からも定期的に文章を発送するなどの取り組みが必要。 ⇒見てわかることも大切だが、運用が共通理解できるようにわかりやすくすることも大切。 ○よいモデルとして紹介できるような取り組みを目指してはどうか。</p>	
精神	<p>* 受診時の移送の問題について * 連携シートの活用について 2014年に作成したシートを相談支援専門員の譲歩提供書と連動させ活用に繋げる * 医療機関に地域での取り組みを知ってもらうための部会開催 * 障害者虐待防止への普及啓発について 地域に出向き、支援に関わる人たちに研修形式で理解を進める部会を開催(事例検討とグループワーク)</p>	<p>議題2: 奄美地域の障がい者用駐車場整備の要望について ○当事者への困りごとの聞き取りを実施してはどうか。 ○当事者の意見を取り入れることが大切。 ○当事者目線で、優先順位をつけて取り組むことが大切。 ○大きな店などの店内でアナウンスしてもらうことも必要。 ○バリアフリーウォッチングの報告書を福祉課だけでなく、他の職員にも共有してもらおう。(チェックにもほかの課職員にも参加してもらったらいのでは) ○障がい者トイレが外部の人にわかりにくい状況があるのは改善が必要。 ○市民の意識の向上のためには、わかりやすいアプローチが必要。 ○市町村議員などにも障がい理解を広げるための研修や体験会が必要では。 ○行政予算で介護保険のようなパンフレットが欲しい。 ○意識向上のきっかけとして、免許更新や取得の際に周知できればよいのでは。 ○協議会として駐車スペースの統一色(ライトブルー)の導入を進めていっては。 ○奄美のスタンダードとして障がい者用駐車場のカラー化を推奨する。 ○「思いやりゾーン」の導入など、対象がそうでないかに分けるのではなく、必要な人が使えるゾーンも設置してはどうか。 ○カラー化に関して民間事業者が実施する場合に補助制度はないか検討。(あれば紹介できたらすすむのでは) ○案内板は、設置場所によって歩行の邪魔になることもあるので、設置には配慮が必要。 ○「施設(高齢者・障がい者)関係車両は、利用しない」ということを以前定例会で取り決め、文章発送も行ったが、それ以降にできた施設などには伝わっていない現状もある。(障がい者が同乗していれば、利用できると勘違いしている事業所もある) ⇒店舗などで、定期的にアナウンスしてもらおう。協議会からも定期的に文章を発送するなどの取り組みが必要。 ⇒見てわかることも大切だが、運用が共通理解できるようにわかりやすくすることも大切。 ○よいモデルとして紹介できるような取り組みを目指してはどうか。</p>	
子ども	<p>* 第2回子ども部会～瀬戸内町～ 「奄美南部地域での子どもたちへの支援に関する課題について」 ・地理的な不利、支援施設数や専門家の不足等、教育や福祉、行政などの連携や課題の共有について確認</p> <p>* 児童発達支援管理責任者情報交換会 ・現状と好事例の共有 ・教育と福祉の連携における課題として、中学校との連携があがった。 ・支援者が替わっても使えるシステムの検討 ・こども部会版「サービス情報シート」の作成</p>	<p>議題2: 奄美地域の障がい者用駐車場整備の要望について ○当事者への困りごとの聞き取りを実施してはどうか。 ○当事者の意見を取り入れることが大切。 ○当事者目線で、優先順位をつけて取り組むことが大切。 ○大きな店などの店内でアナウンスしてもらうことも必要。 ○バリアフリーウォッチングの報告書を福祉課だけでなく、他の職員にも共有してもらおう。(チェックにもほかの課職員にも参加してもらったらいのでは) ○障がい者トイレが外部の人にわかりにくい状況があるのは改善が必要。 ○市民の意識の向上のためには、わかりやすいアプローチが必要。 ○市町村議員などにも障がい理解を広げるための研修や体験会が必要では。 ○行政予算で介護保険のようなパンフレットが欲しい。 ○意識向上のきっかけとして、免許更新や取得の際に周知できればよいのでは。 ○協議会として駐車スペースの統一色(ライトブルー)の導入を進めていっては。 ○奄美のスタンダードとして障がい者用駐車場のカラー化を推奨する。 ○「思いやりゾーン」の導入など、対象がそうでないかに分けるのではなく、必要な人が使えるゾーンも設置してはどうか。 ○カラー化に関して民間事業者が実施する場合に補助制度はないか検討。(あれば紹介できたらすすむのでは) ○案内板は、設置場所によって歩行の邪魔になることもあるので、設置には配慮が必要。 ○「施設(高齢者・障がい者)関係車両は、利用しない」ということを以前定例会で取り決め、文章発送も行ったが、それ以降にできた施設などには伝わっていない現状もある。(障がい者が同乗していれば、利用できると勘違いしている事業所もある) ⇒店舗などで、定期的にアナウンスしてもらおう。協議会からも定期的に文章を発送するなどの取り組みが必要。 ⇒見てわかることも大切だが、運用が共通理解できるようにわかりやすくすることも大切。 ○よいモデルとして紹介できるような取り組みを目指してはどうか。</p>	
地域生活	<p>* 退院、退所後の地域移行に向けた支援、障がい理解のための地域への働きかけについて * 医療連携室、行政、宅建協会、施設の各立場での取り組みや課題の情報共有 * 生活サポートシートにより、不動産や大家さんへ理解を得る工夫 * 対象者別のアンケートを実施し、必要な情報を整理する(宅建協会、大家さん及び退院、退所可能と思われる当事者)</p>	<p>議題2: 奄美地域の障がい者用駐車場整備の要望について ○当事者への困りごとの聞き取りを実施してはどうか。 ○当事者の意見を取り入れることが大切。 ○当事者目線で、優先順位をつけて取り組むことが大切。 ○大きな店などの店内でアナウンスしてもらうことも必要。 ○バリアフリーウォッチングの報告書を福祉課だけでなく、他の職員にも共有してもらおう。(チェックにもほかの課職員にも参加してもらったらいのでは) ○障がい者トイレが外部の人にわかりにくい状況があるのは改善が必要。 ○市民の意識の向上のためには、わかりやすいアプローチが必要。 ○市町村議員などにも障がい理解を広げるための研修や体験会が必要では。 ○行政予算で介護保険のようなパンフレットが欲しい。 ○意識向上のきっかけとして、免許更新や取得の際に周知できればよいのでは。 ○協議会として駐車スペースの統一色(ライトブルー)の導入を進めていっては。 ○奄美のスタンダードとして障がい者用駐車場のカラー化を推奨する。 ○「思いやりゾーン」の導入など、対象がそうでないかに分けるのではなく、必要な人が使えるゾーンも設置してはどうか。 ○カラー化に関して民間事業者が実施する場合に補助制度はないか検討。(あれば紹介できたらすすむのでは) ○案内板は、設置場所によって歩行の邪魔になることもあるので、設置には配慮が必要。 ○「施設(高齢者・障がい者)関係車両は、利用しない」ということを以前定例会で取り決め、文章発送も行ったが、それ以降にできた施設などには伝わっていない現状もある。(障がい者が同乗していれば、利用できると勘違いしている事業所もある) ⇒店舗などで、定期的にアナウンスしてもらおう。協議会からも定期的に文章を発送するなどの取り組みが必要。 ⇒見てわかることも大切だが、運用が共通理解できるようにわかりやすくすることも大切。 ○よいモデルとして紹介できるような取り組みを目指してはどうか。</p>	